

センターだより

平成27年2月15日

NO.52

東濃西部少年センター TEL 23-3455 FAX 26-8813

内 容

自転車のルール	p1
少年センターより	p2~3
3地区役員から	p4~6

2月 守ろう！

自転車の基本的なルールを！



まんさく(まなびパーク)

センター職員

所 長 宮嶋 昌治
指導主任 坂井 正昭
事務担当 柴田 弥生

自転車も走る凶器になります！

各班の指導日誌から自転車に関する指導事例が続いています。

少年センターでは、多治見、瑞浪、土岐市のJR駅前で啓発グッズに表題のチラシを入れて、自転車事故防止の啓発に力を入れています。右記は、配布しているチラシの内容です。

自転車も走る凶器になります！

危ない!!

安全運転はもちろんですが、**自転車用保険の検討も。**

店舗の前や道路上での迷惑駐車を止め、駐輪場を利用しましょう。

ヘルメットを着用しましょう

賠償額	判例	内容
約9600万円	神戸地裁(2013年)	小学5年の男児が散歩中の女性と衝突。障害が残るけがを負わず。
約9800万円	東京地裁(2008年)	男子高校生が歩道から車道を斜めに横断し、男性と衝突。障害が残るけがを負わず。
約5400万円	東京地裁(2007年)	男性が信号無視して交差点に進入し、横断中の女性と衝突。死にさせる。

無灯火 道交法52条違反

並進 道交法19条違反

二人乗り 道交法55条違反

傘差し 道交法70条1項違反

イヤホン使用 道交法70条71項違反

携帯電話 道交法70条71条違反

東濃西部少年センター
多治見市豊岡町1-55 まなびパーク4F
あんしんコール 0120-873246
あんしんメール anshin55@crux.ocn.ne.jp
☎ 0572-23-3455

啓発用チラシ

少年センターの今年度を振り返る

東濃西部少年センター

「44,200」

この数字は、“東濃補導センター”から“東濃西部少年センター”に名前が変わった平成10年から、平成26年までの17年間の延べ街頭指導です。毎年200人の少年指導員さんが、1人年間13回、17年間、街頭指導をして頂いたとすると44,200になります。大変大きな数です。多治見、瑞浪、土岐の3市、全ての地域をくまなく巡回して頂いていることが、どれだけ若者の支援になっているか、はかりしれません。献身的な街頭指導が、若者の不良行為の早期の発見につながり、非行を未然に防止するという成果になっています。

さて、平成26年度も残り僅かとなりました。そこで、今年1年の少年センター業務の三本柱「声かけ活動」「啓発活動」「相談活動」について、順を追って振り返ってみます。

声かけ活動

声かけ活動では、指導員199名(多治見102名14班・瑞浪41名9班・土岐57名11班)が、各小学校区を基本エリアとして、月1回1時間の声かけ活動を実施してきました。その結果今年度も子どもや若者が、元気に気持ちの良い挨拶をしてくれるとの報告が目立っています。これは、「声かけ活動」の趣旨が、定着してきた成果だと思えます。今後も「声かけ活動」の積み上げが、子ども・若者との人間関係を深め、非行・犯罪防止の力になるであろうと信じています。

また、花火大会や夏の行事が集中する7・8月の期間は、21時～22時までの時間帯に、行事会場やJRの駅周辺で、夏休み夜間特別声かけ活動を実施して頂きました。この時期、以前は、各地区で一部若者によるたむろや喧騒などの迷惑行為がみられましたが、関係機関や各種団体のご尽力もあって、現在は大変落ち着いています。

啓発活動

啓発活動は、従来「大人(指導員)から子ども・若者へ」という大人主導による縦の関係で行われていました。しかし、近頃新聞紙上等で頻繁に紹介されているように中高生による社会参加・社会貢献活動は、決してめずらしいことではなくなっています。こうした社会の流れの中で、少年センターでも、21世紀の社会を担う

若者主体の「若者から若者へ」という横の関係を重視し、同じ世代が相互に関わる路を求めてきました。

その1例が、11月に行われた「全国子ども・若者育成支援強調月間」のセミナーへの3市の高校生の参加です。多治見市では、JR多治見駅南北通路を会場とした啓発活動を行いました。多治見



多治見駅での啓発活動

市内4校の高校生28名と多治見高校吹奏楽部34名の参加によって行われ、セミナーの運営・活動まで彼らに委ねました。また、瑞浪市では、11月4日に市内3ヶ所（瑞浪駅、ピアゴ、バロー）で啓発活動が行なわれ中京高校と瑞浪高校の生徒が参加しました。土岐市では、11月14日に土岐駅前で啓発活動が行われ、土岐商業高校、東濃フロンティア高校の生徒が参加しました。

次に、JR多治見駅前の啓発活動を多治見市内4校の高校生が、高校単位で交互に実施してくれることが定着しました。瑞浪市、土岐市でも市内の高校生によるJR駅前啓発活動が、今年度新たに実施できました。

今後、少年センターでは、若者自身が社会の一員としての自覚を持ち、社会への貢献活動より積極的に推進していくための支援の場を設定していくことを大切にしていきたいと考えています。

相談活動

扱った相談件数は、12月末現在で77件（32人）でした。これを昨年同期の35件（26人）と比べると件数、人数共に若干増加しています。しかし、あんしんコールの電話相談件数は、23件（20人）から18件（16人）と減少していますこの減少は、何回も電話相談してくるリピーターが少なくなって、1回限りの相談が多かったことも一因となっています。悩みを持ち、支援を必要としている子・保護者は減っているわけではありません。もっと気軽に「あんしんコール」「あんしんメール」を利用してもらうように一層PR等を工夫していきます。

最後になりましたが、少年センターでは、これからも子ども・若者の非行防止、迷惑行為防止等のために、少年指導員さん方と緊密な連絡をとりながら活動していきたいと考えています。今後も少年センターに対しまして、何卒、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

良い環境が続くことを願っています。

多治見副地区長
村井 薫

あけましておめでとうございます。

早いもので、私が少年指導員になって数年になります。長年、若者達を指導してきていろいろ思うことがあります。

新年度が始まり、学校を卒業すると若者の多くは、大人の仲間入りをした気分になり、気持ちも大きくなるように思います。そのせいか、春先、駅付近にいろいろな人が集まり、タバコの吸い殻、座り込み等を見かけるようになります。私たち指導員は、みんなに話しかけ、会話をしながら、少しでも助けになるよう声をかけ見守ってゆきたいと思います。



多治見駅前

さんが、「挨拶で絆の日」運動に協力され、一斉に参加されています。

私の所属する2班は、精華小学校・陶都中学校を含む精華校区地区です。この2班と同様に多治見地区では、学校関係、市民会議、交通安全協会、多治見保護区保護司会、更生保護女性会等から推薦された方々で編制されています。皆さんは、月1回の声かけ活動をされると同時に、所属団体の一員としての活動もしてみえます。さらに多治見市で行われています7月と10月の“あいさつ運動・・・絆の日”には、皆さん

私たちの精華校区は、26年度に多治見駅北側に「多治見市役所駅北庁舎」が建設され、平成27年1月5日より業務が、南市役所と北市役所に分かれて動き出しました。そのため、人や車の流れもだいぶ変わってきました。また、四季折々の美しい風景に囲まれた虎渓山（火事で1部焼失しましたが、立派に再建された国宝の建造物のある永保寺）、修道院等、環境のよい地域で観光客も多く訪れています。この校区で今まで、これといった大きな問題が起こっていないことは、本当にありがたいことです。

これからの新しい多治見市を担う子どもたちが健やかに生活できる環境の続くように、私たちの活動が生かされたらと思います。

小さな一歩でも積み重ねれば大きな力になることを願っています。

夏季特別街頭指導の取り組み

瑞浪副地区長
野上 利行

瑞浪地区は、青少年育成市民会議を通じて、各諸団体の協力を得て、約2ヶ月の間の夏季特別街頭指導計画を作ります。この計画を元に、多くの団体（ロータリークラブ・青年会議所・幼小中大の先生及びPTA・保護司会・民生児童委員会・連合自治会・スポーツ少年団・行政等）の代表者が、会議に参加をされてみえる所で、前年度の実施報告を参考にして東濃西部少年センターの瑞浪地区長が説明をします。街頭指導日のメンバーは、センター指導員が2名と諸団体の方が3～4名の構成です。

当日は、今までに問題のあった所を指導員が説明をしていきます。初めて活動に参加された方は、「ここの橋の下に過去にアベックがいました」と話すと「こんな所に」とびっくりされます。又、学校の先生も「初めて知りました」と言われます。今まで経験のなかった街頭指導に参加されたメンバーは、新たな発見を多くされています。この経験を今後に生かして頂ければと思います。そして、多くの参加者の意見を参考にして、今後の取り組みをしていきます。

この計画は、約10年前から始まり、少しずつですが広まってきています。今回の指導で初めての経験でしたが、街頭指導時にいつもは青少年を中心に考えていましたが、途中で高齢の男性が家の前で大声で叫んでみえるのに遭遇しました。声かけをした所、「今日集まりがあったが、この家の独居の友達が来なかったので心配になって寄ってみた。電気はついているも返事がない」と言



瑞浪ピアゴ

われました。少し話を聞いて「これから交番に帰るので話しておきます」と言って別れました。交番に報告をし、警察官の方が、家族を捜して頂き、寝てみえて無事だったことを交番から早々に電話を頂きました。夏季特別街頭指導では、このような事例もありました。

今後も多くの方の関わりにより、青少年や町民の健全育成に役立てれば幸いです。

「挨拶」のすばらしさ

土岐副地区長
後藤 秋利

私は、一昨年からJR土岐市駅前において、少年指導員として啓発活動（ティッシュペーパー、マスク配布）を実施しています。その活動中、乗降客の高校生達の挨拶の気持ち良さに酔いしれています。

高校生達は、それぞれ大きな声で「ご苦労様です」「ありがとうございます」と返答をしてくれます。その声で、こちらにやる気が湧き、さわやかな気持ちにさせてもらっています。

以前私は、こんな体験をしたことを思い出しました。

私は、退職後、毎朝五時から六時頃の一時間程のウォーキング（軽い散歩ですが）を行っており、ある時出るのが遅くなり、小学校の集団登校と重なりました。その時の子供達の元気の良い「お早うございます」の挨拶に、心洗われる思いをしました。後で聞くとところによると、小学生達は、上級生達から「誰にでも挨拶をする様に」と教えられているそうです。



土岐市駅

私は、自分が小学生の時には言った覚えもなく、言うように教えられた記憶もありません。この教えを学校教育の一環と考えれば、先の高校生達の挨拶の気持ち良さも納得できます。

私も子供達に負けない様、ワントーン声を上げ、さわやかな挨拶を心掛けていきたいと思います。

自転車事故の被害

多治見警察署が集計した、昨年1年間の3市の自転車事故による被害状況です。重症者は30代1名、50代1名、高齢者2名でした。

岐阜県下では死亡された方が14名で、その内小学生が1名でした。運転マナーの啓発を行いましょ。

《参考》H26年1月～12月の 多治見署管内における自転車事故被害

	軽傷	重症	死亡
小学生(1～3年)	1	0	0
小学生(4～6年)	1	0	0
中学生	3	0	0
高校生	15	0	0
有職無職少年	2	0	0
大人	23	4	0
合計	45	4	0

多治見警察署交通第1課資料より